



株式会社カプコン  
(東証一部:9697)

2015年3月期第2四半期  
決算短信補足資料

# 将来の見通しに関する注意事項

この資料に記載されている経営戦略、計画や見通しなどは、過去の事実を除いて将来の予測であり、現時点において入手可能な情報や合理的判断の根拠とする一定の前提条件に基づいており、実際の業績等は今後の様々な要因によって、これら見通しとは大きく変動する場合があります。

また、当社を含め当業界は、ユーザーニーズの多様化など、市場環境の変化によっては業績が大きく振れる可能性があります。

業績等の変動要因としては、①売上高の過半数を占める家庭用ゲームソフトのヒットの有無や販売本数の多寡、②家庭用ゲームソフト開発の進捗状況、③家庭用ゲーム機の普及動向、④海外市場の売上状況、⑤株価、為替動向、⑥他社との開発、販売、業務提携、⑦市場環境の変化などが挙げられます。

また、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

## < 目次 >

1. 連結損益計算書 ……P3
2. 連結貸借対照表 ……P7
3. 連結キャッシュ・フロー計算書 ……P9

# 1. 2015年3月期第2四半期 連結損益計算書

# 2015年3月期第2四半期 連結損益計算書

## ■ 2013/9実績 対 2014/9実績

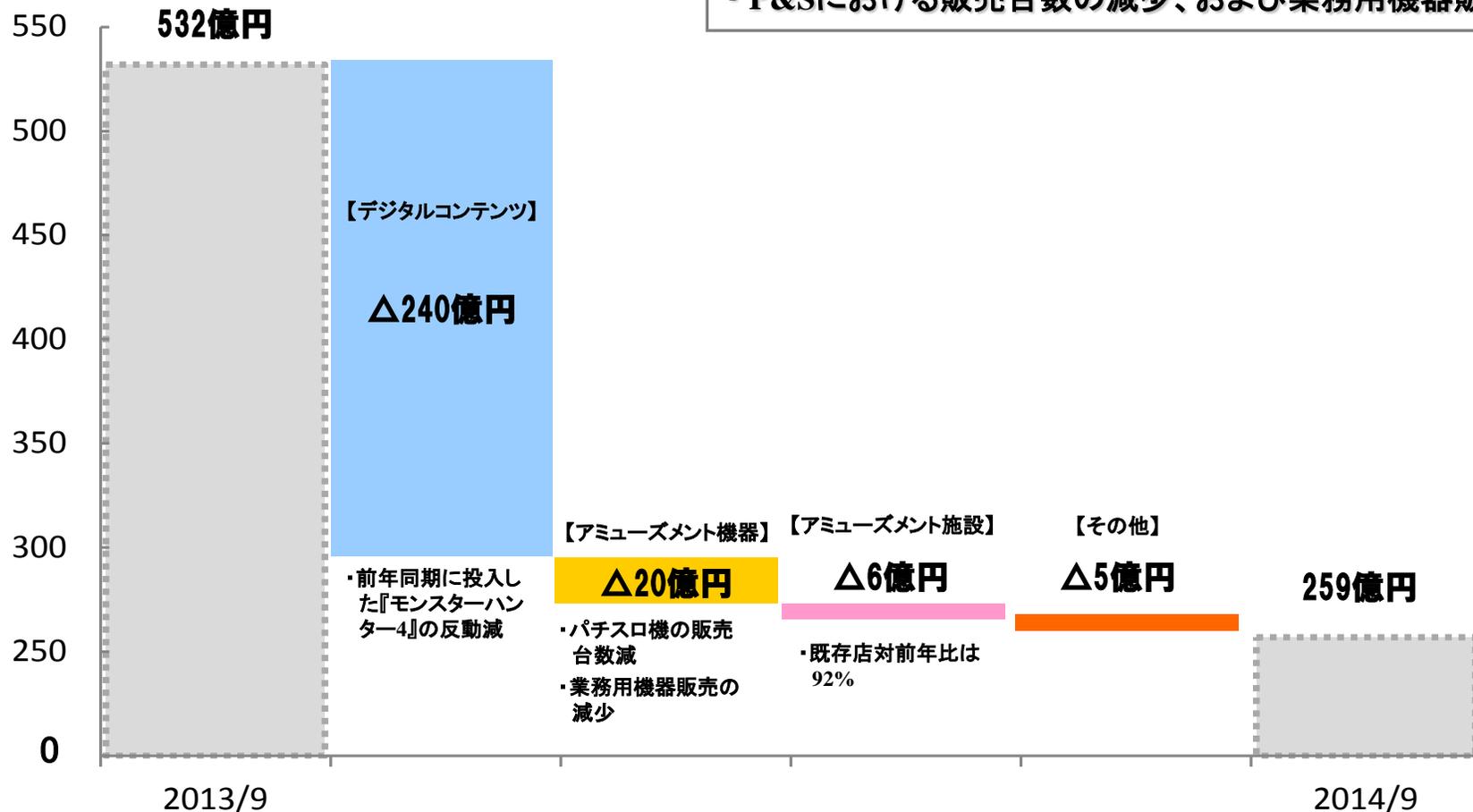
(単位:百万円)

|        | 2013/9 | 2014/9 | 増減                   |
|--------|--------|--------|----------------------|
| 売上高    | 53,234 | 25,917 | -27,317              |
| 営業利益   | 7,509  | 4,383  | -3,126               |
| 営業利益率  | 14.1%  | 16.9%  | +2.8 <sub>ポイント</sub> |
| 経常利益   | 8,190  | 4,540  | -3,650               |
| 四半期純利益 | 4,950  | 2,973  | -1,977               |

- デジタルコンテンツ事業における大型タイトルの反動減を主因とし  
前年同期比で減収減益ながら、コスト削減等が奏功し利益率は向上

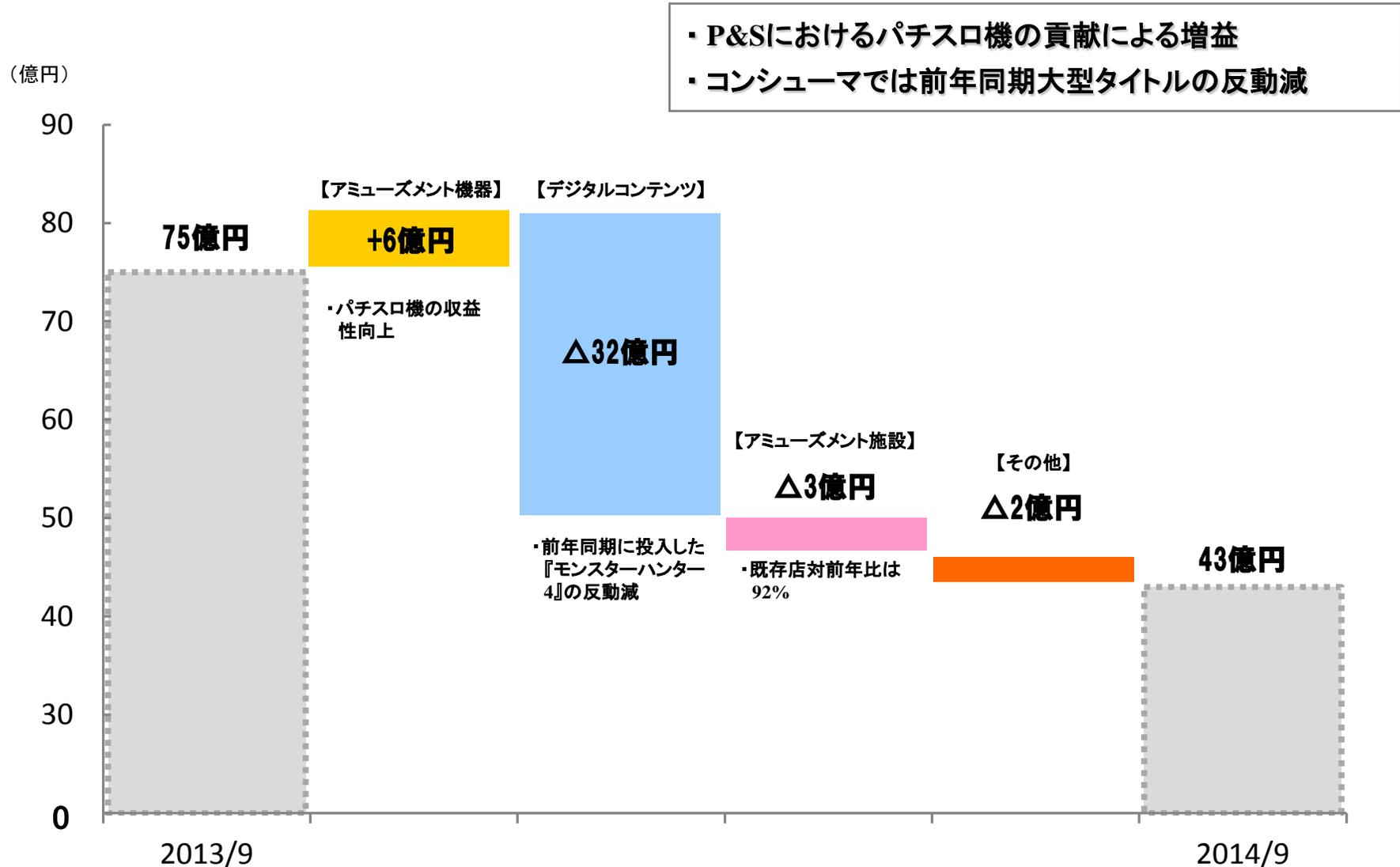
## ■ 2014/9 売上高増減要因

(億円)



- ・ デジタルコンテンツ事業での前年同期大型タイトルの反動減
- ・ P&Sにおける販売台数の減少、および業務用機器販売の減少

## ■ 2014/9 営業利益増減要因



## 2. 2015年3月期第2四半期 連結貸借対照表

# 2015年3月期第2四半期 連結貸借対照表

## ■ 貸借対照表 主要変動項目

(単位:百万円)

| 資産の部       | 2014/3 | 2014/9 | 増減     |
|------------|--------|--------|--------|
| 受取手形及び売掛金  | 18,134 | 8,280  | -9,854 |
| ゲームソフト仕掛品  | 10,355 | 15,630 | 5,275  |
| 無形固定資産 その他 | 7,300  | 9,375  | 2,075  |

### (1) 受取手形及び売掛金

前期末に発売したパチスロ機の売掛金回収が進み、減少

### (2) ゲームソフト仕掛品、無形固定資産 その他

コンシューマおよびオンラインタイトルの開発進行に伴う増加

(単位:百万円)

| 負債の部  | 2014/3 | 2014/9 | 増減     |
|-------|--------|--------|--------|
| 短期借入金 | 4,050  | 10,219 | 6,169  |
| 長期借入金 | 3,000  | 798    | -2,202 |

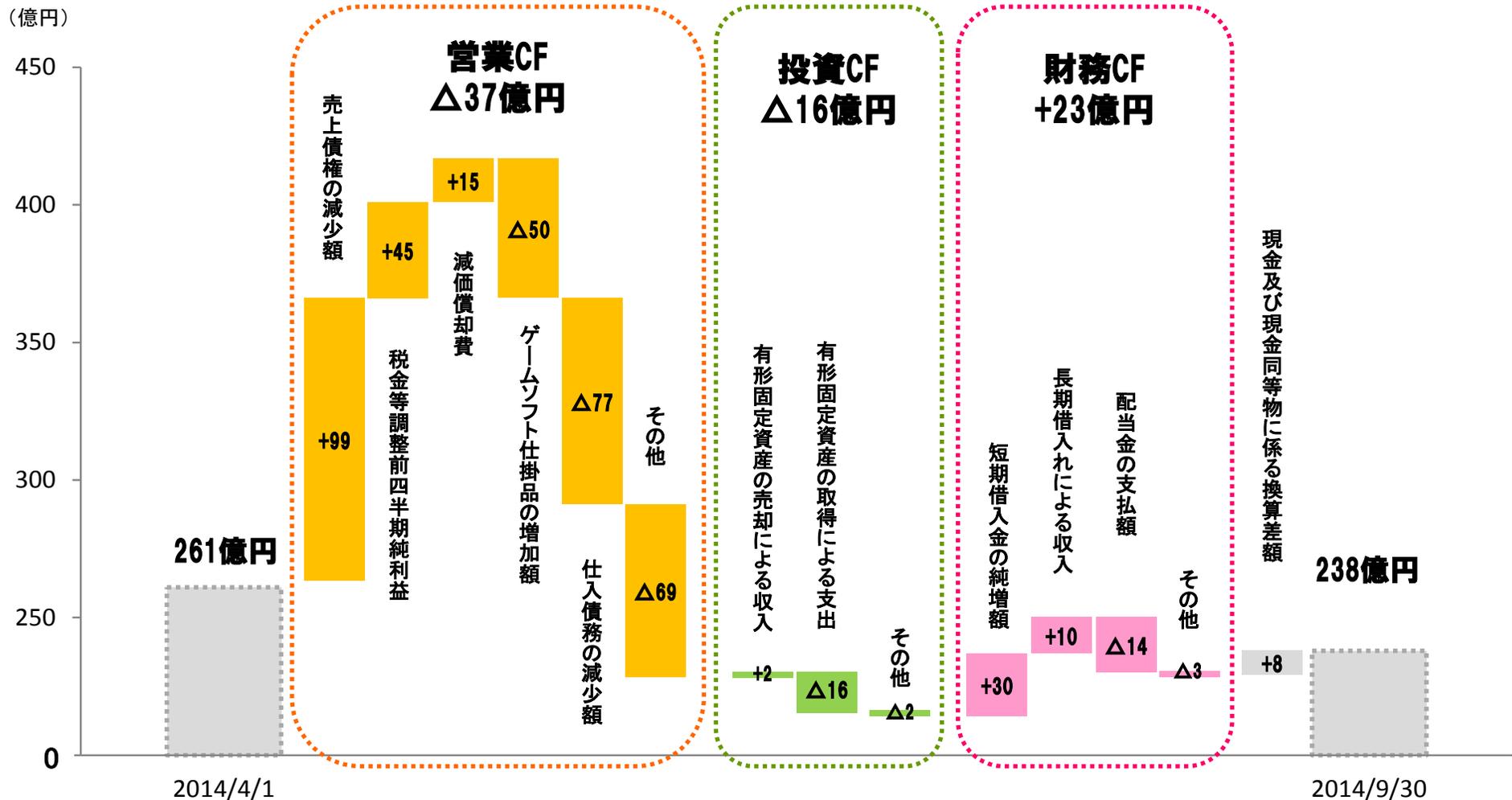
### (3) 短期借入金、長期借入金

借入を実行するとともに、長期借入金を短期借入金へ振替

### 3. 2015年3月期第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

# 2015年3月期第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

## ■ 2014/9 キャッシュフロー計算書 増減要因





**CAPCOM**